

都市政策

季刊 '07. 4

第127号

特集

ソーシャルキャピタルと 地域づくり

巻頭言

幸せな国といわれるフィリピンの秘密 新野幸次郎

論文

ソーシャルキャピタルと地域づくり 立木 茂雄

神戸市内の地域ソーシャルキャピタルに関する

実証分析 柴内 康文

「友愛のまち」北須磨団地の

ソーシャルキャピタル 松原 永季

六甲アイランドのまちづくり 水野 優子

地域と企業が共生する秘訣 森崎 清登

海外レポート

英国スコットランドにおけるソーシャル・エンタープライズと

コミュニティ・プランニング 本荘 雄一

行政資料

「デザインをまちづくりに生かすための研究会」報告書（概要）

神戸市中小企業活性化プログラム（概要）

平成17年度神戸ブレイン研究支援事業の報告について

3

SC

2006 6 2007

1959

5 1999 2001 2004 2004b

12 269 1 623

10 2003 2001 2004 2

5 2003 2004

2003 188 763

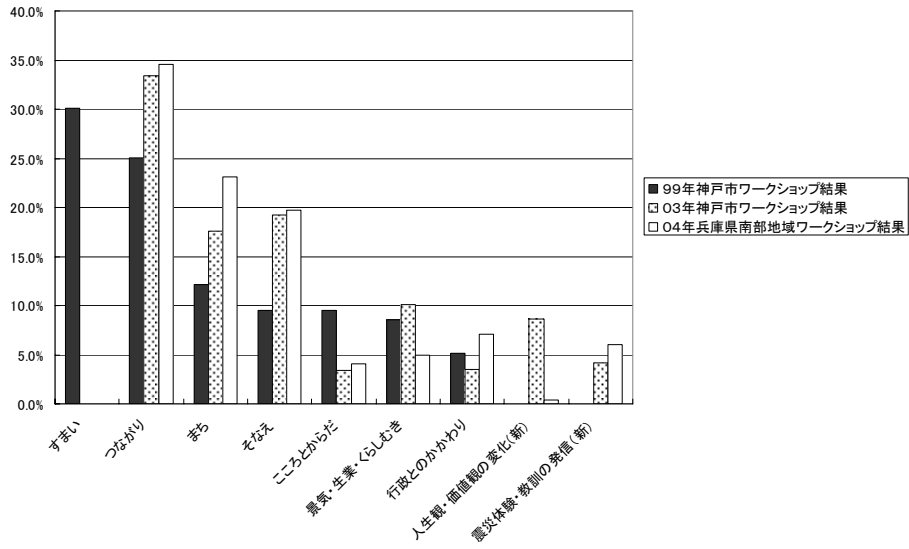
2004 279 748

5 10

04 2003

2004a, 2004b

生活再建を進める上で重要だと指摘された意見群の変化：
震災5年目検証と10年目検証ワークショップの結果から



5 10

5 10

1999 2004

10

2004 p.233

2002

2004b

(2004)

2005 6

R.

, 2001/1994

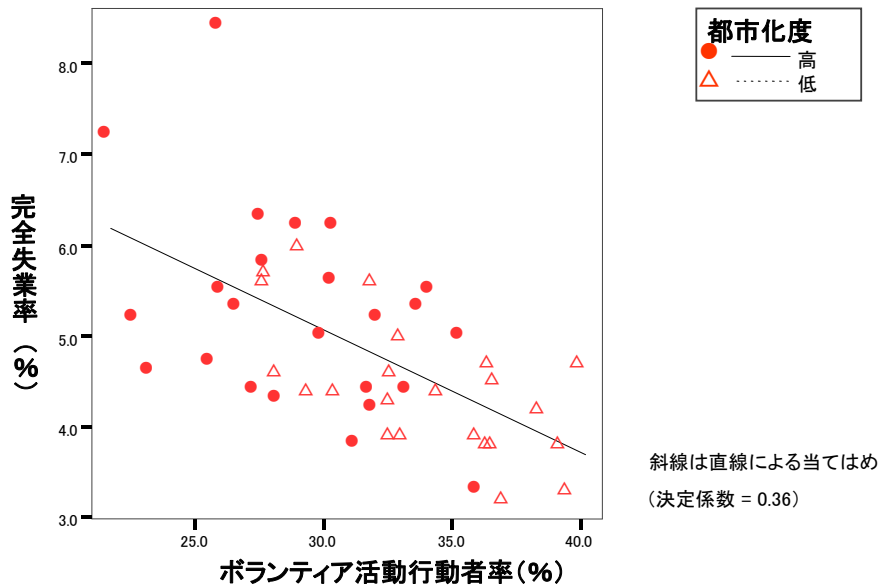
51

, 2006/2000

2002

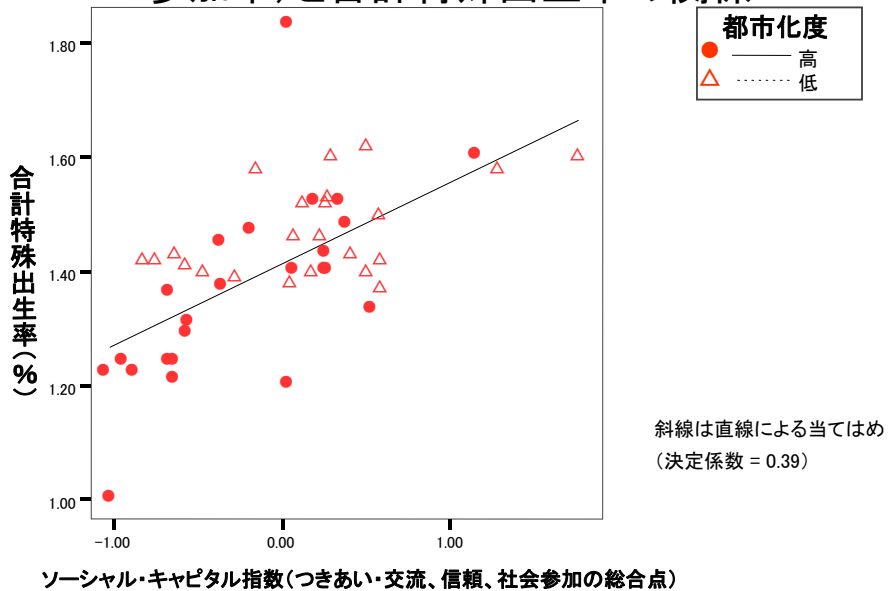
, 2006)

ボランティア活動と完全失業率の関係



(平成14年度内閣府委託調査報告書「ソーシャル・キャピタル:豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」より、独自に作成)

ソーシャル・キャピタル(つきあい、交流、信頼、社会参加率)と合計特殊出生率の関係



(平成14年度内閣府委託調査報告書「ソーシャル・キャピタル:豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」より、独自に作成)

07 3

10

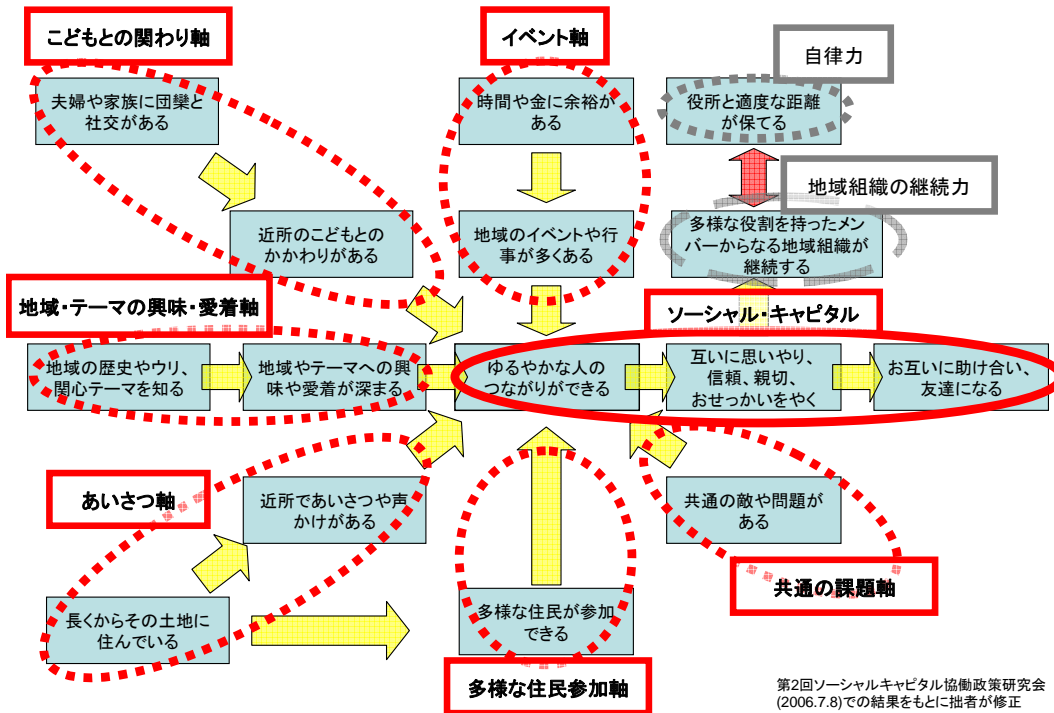
2006 6

- 1) 2006 7 28
- 2) CITY 2006 9 15
- 1
- 3) 2006
- 10 31
- 4) 2006 10 31
- 5) 2006 10 31
- 6) 2006 11 21
- 7) 2006 11 21
- 8) 2006 12 19
- 9) 2007 1 30

2006

2001

地域のつながりを豊かにするために必要なことは？



第2回ソーシャルキャピタル協働政策研究会 (2006.7.8)での結果をもとに拙者が修正

表1 地域のつながりを豊かにするためにできること(課題の構造化)

接近軸	活動の方向性
1.地域・テーマへの興味・愛着を深める	<p>地域の伝統・文化・歴史・魅力、生活に役立つ情報を知る</p> <p>地域の魅力やウリ(自慢できるヒト・コト・モノ)を掘り出し、発信する</p> <p>地域で世話を焼くものをつくる</p> <p>「地域」から離れて、「テーマ」を中心とした人の輪もできるので、この活動を通じて地域活動に目を向けたり、たまり場を活用する</p>
2.あいさつ	<p>様々な年齢・性別・社会階層間で、あいさつを励行する</p> <p>子ども・学校・地域を活用</p> <p>あいさつを地域に浸透させる技術を確立する</p>
3.イベント	<p>住民主体で企画する</p> <p>住民主体で開催する</p> <p>住民が参加する</p> <p>具体的にできるイベント例</p> <p>イベントを支援する</p> <p>地域課題解決のために活動をイベント化する</p>
4.子どもとの関わり	<p>子どもと大人の共同参加を広げる</p> <p>多様な年代の幼児・児童・生徒が集えるたまり場をつくる</p> <p>子どもの手によるイベントづくり、参加を進める</p> <p>学校・団体と連携する</p>
5.多様な住民参加	<p>自治会だけでなく、商店街、事業者などが集える「多様な参加の場」をつくる</p> <p>地域にあるサークルや井戸端会議の場を発掘し、広げ、地域活動とつなげていく</p> <p>多様な市民が互恵・対等・平等に参加するための技術を身につけるとともに、多様なステークホルダーをつないで橋渡しをする仲介者を活用する</p> <p>多様な参加を保証する組織運営を行う</p>
6.共通の課題	<p>地域課題に関する情報を共有し、解決の必要性・可能性への住民の気づきを促す</p> <p>地域課題を共有するための場やしきみをつくる</p>
7.行政の支援	<p>直・間接の合意形成の支援</p> <p>地域担当制によって顔の見える行政化を進める</p> <p>地域の自律性・自主性に応じて資金の支援をする</p> <p>既存制度の拡大</p>
8.組織の自律力	<p>地域リーダー・フォロワーの存在が自律のためには不可欠</p> <p>組織の継続性の確保</p> <p>自主事業を行うための自主財源を確保する</p> <p>事業者・団体との連携</p>

		実施主体			
		具体的活動	地域	行政	団体・事業者
1.地域・テーマへの興味・愛着を深める	地域の伝統・文化・歴史・魅力・活動、生活に役立つ情報を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・年長者と若者層が直にふれあうことで歴史、知恵などを継承させる ・まちの歴史を知る会を広める ・地域の伝統行事を洗い出す ・「自分の住むところはどんな場所なのか」知るための情報を知る(ICTが活用できるかもしれない) ・住民自身による「地域情報の集約」活動をする ・行政が行う社会意識調査のサンプル数が小学校区で100件程度となれば各学区の特徴を個人の回答をもとに推定することができる ・行政調査は、町丁目単位に加えて小学校区単位でも取る 	○		
	地域の魅力やウリ(自慢できるヒト・コト・モノ)を探し出し、発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のウリを探す ・地域自慢マップを作ってみる ・地域自慢の発信のためのまちのフォトコンテンツ→カレンダー配布 ・地行き自慢の投稿→ミニコミ・CATV発信 ・「まちの歴史・文化」大使制度を始める 	○		○
	地域で世話を焼くものをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・公共物のアドプト制度を街路以外にも拡大する ・クリーン作戦を定例で実施する ・地域の中にやっかいなものをつくる(例:せせらぎ、そうじ) 	○	○	
	「地域」から離れて、「テーマ」を中心とした人の輪もできるので、この活動を通じて地域活動に目を向けさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバーカレッジでは、団塊世代が地域から離れ、テーマごとに「共通の学び体験」を提供し、併せて同好の仲間づくりの場を提供している。 ・シルバーカレッジでは、会員を地域割りし、地域社会貢献への使命感を醸成し、ボランティアや自治会活動につなげている ・テーマ型のコミュニティ形成では、SNSなどに代表される新しいICTや地元密着型のCATVなどが有力な武器になるかもしれない。 	○		
	地域にあるたまり場が、地域への関心・愛着の源泉になる	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校開放を通じて、各種団体のたまり場にする ・地域のたまり場調査をする ・学区内にあるたまり場(コミュニティセンターなど)を活用する 	○	○	○

1

1970

1

180

20

1

100

ICT

SNS(

)

CATV

ICT

ICT

3

実施主体

		具体的活動	地域	行政	団体・事業者
2.あいさつ		<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつはまず自分から ・あいさつ運動を地域で広める ・地域であった人には必ずあいさつをするようにする ・高齢者も積極的に声をかける ・年配者から進んで声をかける ・ゴミステーションでのあいさつ(立ち番) 	○		
	子ども・学校・地域を活用	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからのあいさつ運動(学校教育の中で指導を) ・子どもの通学時のあいさつ運動 ・小学校内でのあいさつ運動 ・地域の信頼できるオジサン、オバサンに(通学時外にいる人)関わってもらう ・地域の商店では、あいさつ(いらっやい!)が商売の基本なので、あいさつしやすい 	○	○	
	あいさつを地域に浸透させる技術を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ浸透の技術について検討する ・「ご近所の(安心してあいさつできる)ヒト」を知るためのしくみをつくる(配布物、学校訪問、商店探検隊) ・あいさつの流れをつくる(先生・リーダー→子ども→地域の人、来街者) 	○	○	○
			○		○

		具体的活動	地域	行政	団体・事業者
3.イベント	企画する	<ul style="list-style-type: none"> ・主催する立場の住民自身が楽しめるものであることが大事 ・主催者側の住民個々に役割があり、それが尊重される運営が重要 ・地元の子供、若者にイベントを企画、実施してもらう ・イベントの主催者に一回はなってもらう仕組みを作る 	○		○
	開催する	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに地域内でイベントを定期的で開催する ・年中行事を当然のようにやる(お年寄りから) ・地域の小公園を活用する 	○		
	参加する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事にできるだけ参加する ・参加する意識を高めるように地域で盛り上げる 	○		
	具体的にできるイベント例	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操 ・まつり ・盆踊り ・誰もが参加できる楽しい行事 	○		
	イベントを支援する	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動イベント助成の仕組みを確立する ・自らイベントを住民がつくっていくためのツール、機会、資源を用意する 	○	○	
	地域課題解決のために活動をイベント化する	<ul style="list-style-type: none"> ・住民自らが楽しめる行政課題(ゴミ・暴力団事務所・テレクラ等)に対応した地域活動のイベント化をはかる ・二宮地区のゴミ問題では、「ゴミマナーを守ろう」のほりのももたろう行列やゴミ出し日の立ち番をイベント化することで住民のやる気を高めた 	○	○	○
			○		○

2002

		実施主体			
	具体的活動	地域	行政	団体・事業者	
4.子どもとの関わり	子どもと大人の共同参加を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが集まれば親も集まる」ことの重要性を再確認する必要がある ・「将来の担い手を育てる」という意識で大人が関わることが大事 ・公園の清掃への親子参加を促す ・地域イベントへの子ども参加のコーディネートを行う ・地域のスポーツ活動を大人が積極的に応援する 	○		
	多様な年代の幼児・児童・生徒が集えるたまり場をつ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと大人が集える場(空間、機会など)づくりを進める ・子どもの成長過程に応じた「集まれる場」を提供する ・児童、生徒(中・高生)それぞれの年齢層にあったたまり場をつくる(例えば名谷のユースプラザ) ・たまり場には兄貴分、姉貴分がいるようにする ・母親同士のつながりを広げる(あーち、東灘区子育てサポーターなど) ・母親の情報交換の場を意識的に作る 	○	○	○
	子どもの手によるイベントづくり、参加を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども参加型のイベント実施(例:こどもまちあるき) ・子どもの行事にできるだけ参加する ・「子ども」「子育て世代」を対象とした地域活動の企画・運営 	○	○	
	学校・団体と連携する	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事(音楽会・運動会・文化祭等)に地域も参加できるようにし、PRを活発に行う ・小学校、中学校、高校が地域イベントの情報の共有し、協力しやすくする 	○	○	○

実施主体

		具体的活動	実施主体		
			地域	行政	団体・事業者
5.多様な住民参加	自治会だけでなく、ボランティア、NPO、商店街、事業者など「多様なステークホルダー」が参加できるプラットフォームをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・まちかど会議（六甲アイランド）では、住民・事業者・行政のゆるやかなつながりで情報の集約・共有・課題解決にむけた合意形成ができています ・まちかど会議（六甲アイランド）は、「任意加入」かつ、地域課題を「総合的・統一的」に話し合う場として働いている ・まちかど会議（六甲アイランド）では、課題の共有化から問題解決にむけた個別分科会がうまれる「かまど」のようなところが良い ・地域活動に多様なステークホルダーを迎え入れることによって正便益不採算事業（外部経済）を内部化することができる 	○	○	○
	地域にあるサークルや井戸端会議の場を発掘し、広げ、プラットフォームに誘い、地域活動につないでいく	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加でき、井戸端会議的な話し合いのできる場が必要 ・井戸端会議をしている場を探し、地域活動への参加を促す取り組みが必要 ・世代や性別や興味など様々な切り口のサークルを広げる ・無関心層の活性化策が必要 ・郊外型ショッピングセンターは、雇われ・アルバイト店長が多く地域に関心無し。地域活動の端緒が困難。 ・急速な高齢化でリーダーは平均70歳代。リーダーの得手不得手に地域活動が依存し、差が大きい。 	○	○	
	多様な市民が互恵・対等・平等に参加するための技術を身につけるとともに、多様なステークホルダーをつないで橋渡しをする仲介者を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップなど市民参加の技術を多くの住民が習得する ・行政や事業者といっても、結局は「窓口になる人」で組織は判断される。 ・信頼されるブローカー（仲介者）は「よそ者」の方が良く、知らない人同士を結びつける力を持っている 	○	○	○
	多様な参加を保障する民主的な組織運営を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・上意下達型の地域組織を改革し、民主的な意思決定ができるようにする ・役員（スタッフ）に情報集約担当（HP作成など）が必要 	○		

2006

2007)

(

WOM Word of Mouth

		実施主体			
		具体的活動	地域	行政	団体・事業者
6.共通の課題	地域課題に関する情報を共有し、解決の必要性・可能性への住民の気づきを促す	<ul style="list-style-type: none"> ・初期は「地域課題に関する行政の情報提供」→「住民による現状認識」→「地域主体の協働体制づくり」へと進んでいく ・地域課題を気づいてもらう仕掛けづくり(Push型でなくオピニオンリーダーを通じた2段階WOM(Word of Mouth口コミ型)の流れで)を活用する ・コミュニティ・チャリン、HPなど頻繁な情報提供 ・地域情報のメールマガジン化 	○ ○ ○	○	
	地域課題を共有するための場やしきみをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の事業者への公害反対運動が、逆に事業者の地域密着化の契機となった ・共通の課題を解決する(ごみ、犬猫のふん、カラス対策、古紙等の協同回収) <p style="text-align: center;">PR</p>	○ ○ ○	○ ○	○ ○

		具体的活動	実施主体		
			地域	行政	団体・事業者
7.行政の支援	直・間接の合意形成の支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな地域でも主体的な地域活動を行える潜在力はある、と考える(二宮地区) ・行政は、地域の潜在力が発揮されるための「呼び水」としての触媒の役割を果たす ・行政職員や地域で活動する人材のファシリテーション能力を高め、活用する ・コンサル派遣による合意形成支援は効果的、拡充を図る ・行政はリーダー、サブリーダーを支援する 	○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
	地域担当制によって顔の見える行政化を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・行政は通常縦割りだが、地域担当制によって地域の問題について誰が行政窓口になるのか、「顔」の見える関係が地域実現でき、支援されていると感じる ・「地域担当者制」は地域に概ね好評で、今後もっと拡充する ・地域担当者にはファシリテーション能力が必要で、それを人事評価に反映させるべき ・地域担当者には、制度や予算を地域の実情に合わせ、活用できるように翻訳できる能力が必要 		○ ○ ○ ○	
	地域の自律性・自主性に応じて資金の支援をする	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自律度・成熟度に合わせた段階的な地域活動支援策の展開・活用 ・自治力・自律力の高い地域から、現在の縦割り部局ごとの地域団体助成システムを総合化し、包括的な役所の助成金(ブロック・グラント)制度を始める ・市民税?%は小学校区で使えるようにする 		○ ○ ○	
	既存制度の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバーカレッジと同じような役割を持つ機能・施設を市内で拡大 ・まち育てサポーターを現行の各区ごとから、よりきめ細かく配置へ 		○ ○	

		実施主体			
		具体的活動	地域	行政	団体・事業者
8.組織の自律力	核となる複数のリーダーと、リーダーを支えるフォロワーの存在が自律のためには不可欠		○		
			○		
			○		
	組織の継続性を確保するために知恵をしぼる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域組織運営ハンドブック・運営事例集をつくる ・日頃からリーダーになりそうな人に参加を呼びかけておく ・サブリーダーを養成し、リーダーを順送りに継承してもらう慣習をつくる ・輪番制で皆が役割を体験することが大事 ・「多様な参加の技術」の集約と啓発 ・多様なリーダー像のイメージを地域に即した「リーダーチーム」の構築 ・各団体で多くのリーダーを育てる。リーダーを全体のリーダーに育てる ・地域活動やまちづくりに関わる「共通体験、OB・OG体験」を経た住民が継続的に集まることのできる機会や場所の提供 ○ ・リーダーを讃える地域顕彰制度をつくる ・まちづくり学校でノウハウを蓄積・共有していく 	○	○	○
自主事業を行うための自主財源を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの管理の受託→自主財源に公園・街路樹の剪定とか ・行政の支援もある資源回収など地域でできる事業で財源をつくる ・何らかの事業を持つことが必要 ・地域自身がビジネスをする ・「自主財源」確保のバリエーションの豊富化と活用 ・地域通貨導入 ・地域団体自主財源コンテストで良いアイデアを募る ・小学校区単位で「まちの共益費(BIDの地域住民版)」を徴収する 	○	○	○	
多様な事業者・団体と連携することで、逆に組織の自律性を高めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりが企業生き残りの鍵と考えている事業者がいる ・住民組織と連携したいと考えている商店街は元気である ・大学側が、研究活動の一環として地域との連携に熱心になってきている 	○		○	

OB CG

2005 4 %
NPO
1 1
2 1

NPO

2002

10

2006

(2006)

, , pp 173-187.

(2006) ()
), Nb. 124 pp. 19-39.

(1999)
(<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/06/013/kensyou/index-5.htm>)

(2004) H
http://www.city.kobe.jp/cityoffice/06/013/kensyou_15/sai-syuuhoukoku/sai-syuuhoukoku.htm

(2002)
1 http://www.kobe2001.or.jp/kyoudou_suna/suna001.htm
, R (2001/1994) NIT
, R (2006/2000)
(2007)
Vol 92, Nb. 3, pp. 74-75.
(2001)
() . Nb. 104,
pp. 123-141
(2002) Inidias2003 p. 844
(2004a) (),
Nb. 116, pp. 88-105.
(2004b)
, Nb. 5, 2005, pp. 5-27.
(2006) Inidias2007 , p. 656